

【勉強会】

「自閉症遺伝子研究の倫理」

自閉症スペクトラム障害(ASD)の遺伝的側面の研究における

倫理・社会的課題の検討

開催日時 : 平成 22 年 2 月 18 日 (木) 19:00～
場所 : 宝町キャンパス 十全講堂 2F 大会議室
講師 : 京都大学 生命科学研究所 東島 仁 先生
参加費 : 無料
コーディネーター : 大井 学 (JST 研究プロジェクト代表)

○講師紹介○

人間の心・行動の生物学的な側面の研究と社会との関係のあり方に関心をもつ。現在は、脳やゲノムの研究が急激に進んでいる自閉症スペクトラム障害の研究の倫理・社会的な側面における課題の明確化に向けて、研究者や当事者へのインタビュー調査などを行っている。京都大学大学院生命科学研究所在学中。

専門は、科学技術社会論、研究倫理、実験心理学。

○ アブストラクト○

ASD の遺伝的側面の研究の進行状況、そして ASD を持つ者や家族を取り巻く状況の大きな変化を受けて、ASD 研究と社会の関係は、急激かつダイナミックな変容を遂げつつある。その結果、ASD 研究の倫理・社会的な課題を検討し、対策を講じる作業が重要な意味を持つようになった。本研究は、現代日本における ASD の遺伝的側面に関する研究の倫理・社会的な課題を明らかにすることを目的に、ASD を持つ子供の両親約 50 名へのインタビュー調査を行い、(1) ASD の遺伝的側面の研究への期待や危惧を抽出するとともに、(2) ASD の遺伝的側面の研究に関する知識を測定した。調査の結果、医療従事者や療育関係者、研究者等が議論・留意する必要がある問題の多面性が明らかとなった。例えば ASD をもつ者と健常者の遺伝的素因の差異が明示されることに対して、結婚や就労面における差別への強い懸念が示される一方、分かることが第一歩であるという好意的な意見も見られた。同じく強い不安が示された問題としては、出生前診断の実現などがあつた。研究参加に対しては肯定的な意見が多く、研究参加に対する報酬などの問題は全体的に軽視されていた。

—問い合わせ先—

〒920-8640 金沢市宝町 13-1

医学系研究科脳細胞遺伝子学教室内連合大学院事務

TEL: 076-265-2458 FAX: 076-234-4236

事務担当: 相川 静

E-mail: coebrain@med.kanazawa-u.ac.jp <http://ristex-kanazawa.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

